

日本企業の進出先の国々を見る

・日本企業の世界進出マップ (88年 → 94年)

アジア：	現地法人数	3770	→	6632	従業員数	80万	→	138万
北米：	現地法人数	2766	→	4091	従業員数	39万	→	62万
ヨーロッパ：	現地法人数	1805	→	3447	従業員数	12万	→	26万

・進むアジアと日本の分業体制 (94年 → 98年)

アジアと日本の分業体制	日本から主要部品供給、アジアで組立	79%	→	55%
	日本で設計、部品は現地調達	41%	→	59%
	現地で製品設計、部品調達	12%	→	42%
	アジアで部品生産、日本で組立	10%	→	17%
アジア域内の拠点間分業体制	アジアの複数拠点で工程分業	18%	→	32%
	アジアの複数拠点で製品差別化分業	13%	→	42%
	アジアの複数拠点を統廃合	6%	→	24%

・国別輸出入割合 中国圏がともに1位： 日本からの輸出 中国圏がアメリカを抜く (2003年)

・発展する中国沿海地域：珠江デルタ地域・ 広東省 ・広州 外資導入 世界の工場に 長江デルタに対抗
広州：「中国のデトロイト」に トヨタ、日産、ホンダ アジアの工場で分業体制

・広東省の人口と流動人口

・松下の中国製造拠点 日立の中国拠点

・世界の輸出の流れ 中間財貿易の拡大 中国向け輸出の財の流れ 台湾を軸とする分業体制

・東南アジアと中国の賃金比較 アジア各国の給与水準 ASEANと中国での製造原価比較

・中国のインドシナ投資

・中国への進出目的

・中国からの物流、中国からの製品コスト :しまむら

・中東欧への進出、ポーランドへの進出状況

・自動車用ガラスの生産

・コンビニの海外展開

○今週の「こんな生き方もある」： 漁師になった有名ブティック幹部社員

○今週のビデオ：NHK-BS「世界潮流2006 シリーズ：激動する世界経済 巨竜と巨象が世界をのみ込む
第2部 新たな世界秩序への胎動」

○参考文献

鈴木茂・大西広・井内尚樹編『中小企業とアジア』昭和堂、1999年

質問・意見等は、高田の E-mail: ystakada@komazawa-u.ac.jp まで。

講義レジュメ、講義スライドの掲載ホームページ: <http://homepage1.nifty.com/ytakada/komadai/kougi/>